鉄道交通は、以上見てきたように、自動車の著しい普及に伴い、鉄道に対する依存度は減少しているが、長距離輸送手段としても、また、エネルギー消費効率と確実性においても自動車にまさり、輸送機関としての優位性を保っており、乗車密度の回復を図るなど地域住民の積極的な対応も望まれる。また、市内の道路と鉄道の平面交差が二十八か所もあって、交通阻害要因にもなっており、立体化を促進する必要性が指摘されている。

注

1 『佐賀関町史』（佐賀関町　昭和四十五年）

2 峠については次の資料から主として引用した。

『臼杵城路』「歴史の道」報告書（大分県教育委員会　昭和六十一年）

『大分県地名大辞典』（角川書店　昭和五十五年）

『大分合同新聞』（昭和五十二年・同五十三年記事・大分県立図書館所蔵）

3 『うすきの歴史的環境と町づくり』（日本ナショナルトラスト　昭和六十一年）

表紙解説

佐伯惟治のの供養塔

（塔高地上二、三七米）

佐伯市石打公民館敷地内

基礎・基壇・方形舟型からなっている。基礎は後補、基壇は三石四段からなり最下部の壇は子供の遊びで彫り窪められ一見四方に蓮弁を巡らしたようにみえる。上部を繰形座風に仕上げ、二石と三石の接合部は約二センチメートルほど堀窪め、上石の安定を図っている。三石目は一石二段としている。

塔本体上部の三角部に梵字キリーク（阿弥陀）その下に左三つ巴と右三つ巴を彫り、その下を約三センチメートル彫り更に地蔵の周辺を彫り下げ、上部左右から瑞雲が巻起こりその中から特殊蓮台上に立つ、地蔵菩薩がこの世に示現し賜う姿を表現している。薄肉彫りながら線刻を交え謎を秘めた塔である。

捐館薩州大守大機正徹居士尊霊本願□智書記

□□□□□

御命日□□□大永七

丁亥年十一月廿五日

地蔵菩薩像　薄浮彫

捐館玉甫宗伯大弾定門神儀　天正二年十月十五日

（甫は浦か）

阿弥陀如来と地蔵菩薩の関係について次のように説かれている。「法蔵は阿弥陀如来の因位の時の名なり、これは地蔵菩薩と一体なりと云う。また一説には、法蔵は比丘（びく）の姿であり、地蔵沙門（しゃもん）は今のかたちである。」

（織田仏教大辞典）